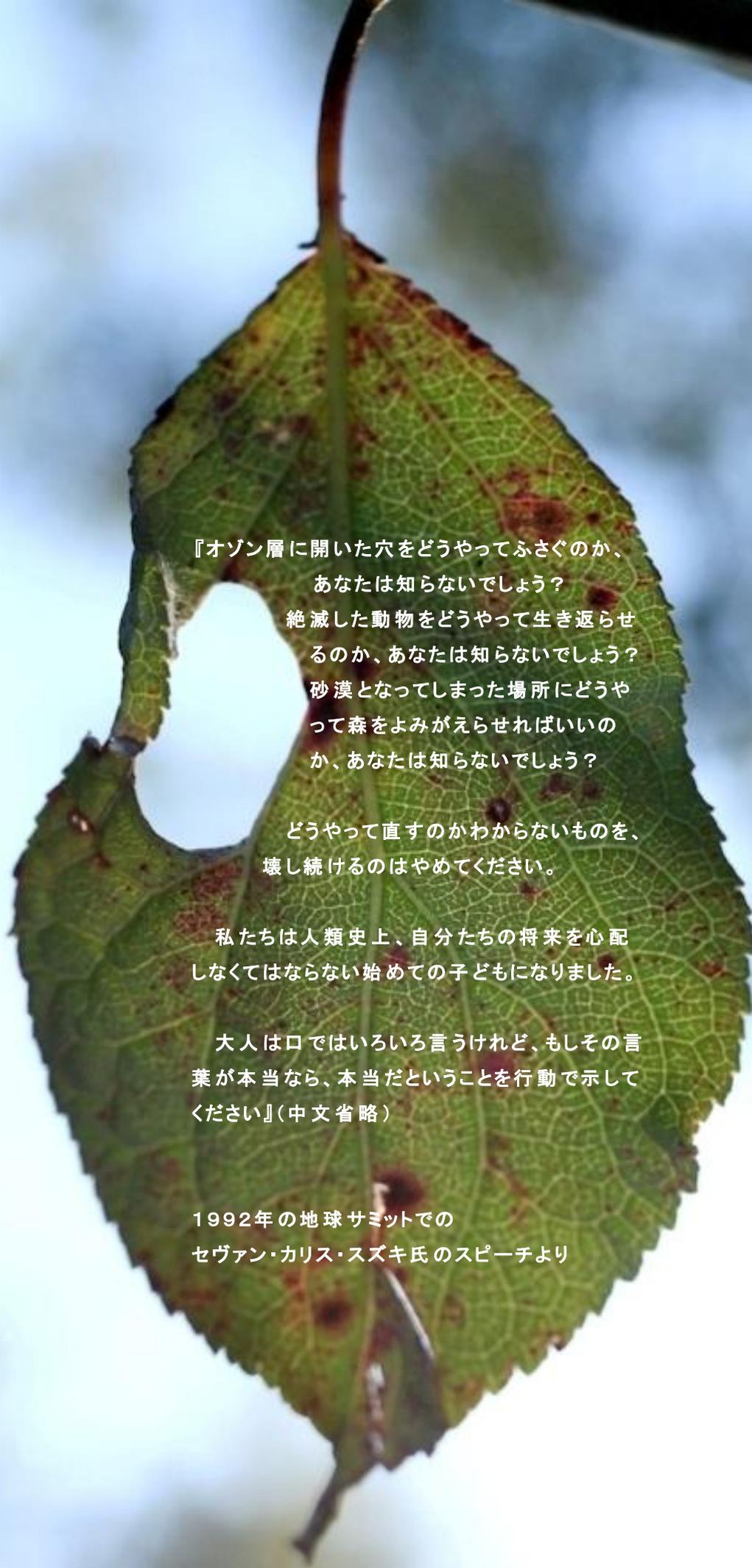


SATOYAMA

絆

未来へ渡そう、ちばの里山



『オゾン層に開いた穴をどうやってふさぐのか、
あなたは知らないでしょう？
絶滅した動物をどうやって生き返らせるのか、あなたは知らないでしょう？
砂漠となってしまった場所にどうやって森をよみがえらせればいいのか、あなたは知らないでしょう？

どうやって直すのかわからないものを、
壊し続けるのはやめてください。

私たちは人類史上、自分たちの将来を心配しなくてはならない初めての子どもになりました。

大人は口ではいろいろ言うけれど、もしその言葉が本当なら、本当だということを行動で示してください』(中文省略)

1992年の地球サミットでの
セヴァン・カリス・スズキ氏のスピーチより



里山を支える時代の到来

「里山」という呼び名が広く使われ、SATOYAMAと表記され、人類の生存に欠くことのできない存在であり、生き物の存続に大きな役割を担っているという認識が、世界共通のものとなっています。このような中で、自然への回帰や、環境の大切さを意識する機会が、日常的にも、急速に増えています。

これまで、人の手が加わる事によって保たれてきた豊かで永続的な里山の持つ「一定のイメージ」が、我が国では、世代を超えて共有されてきました。里山から得られる有形無形の「恵」が、長い間、日本人の生活を支えてきました。

今この「里山」が荒廃し、窮地に陥っています。荒廃は、国土を、そして人の心をも、荒々しいものに変えてしまいます。

社会の各セクターが、各々の役割を分担し、里山の保全、復興を支える時代がやってきました。林業関係者、行政、専門家や市民に加え、企業、団体が社会的なニーズに応える事業の一つとして、環境活動の一環として、千葉の里山に一層の力を注いで下さる事を願っています。

特定非営利活動法人ちば里山センター理事長 金親博榮



豊かな自然に囲まれる千葉

●北と南の動植物が出会う県

日本列島のほぼ中央に位置する千葉県。東京に近く、ベッドタウンや副都心的な機能を担っています。またゴルフ場も多く、全国的にゴルフのメッカとしても知られています。低山が多く、最も高い山でも愛宕山の408メートルほど。しかし、急で谷深い地形と谷津田地形が多くみられます。海にも囲まれ、館山沖ではサンゴや熱帯魚が見られ、利根川や九十九里の河川では鮭も遡上し、陸地でも冷温帯性の落葉広葉樹である梨や暖温帯性の常緑広葉樹のビワの栽培が盛んに行われています。日本一の生産量を誇る作物は多々ありますが、実はあまり知られていない自然からの贈り物も特徴のひとつと言えるでしょう。北限と南限の動植物が競って育つ地域は国内でも稀なはず。貝塚が多く見られるように海の幸や山の幸に恵まれ、歴史が証明するように多様で安定した自然環境が千葉にはあります。

千葉県



↑鮭の遡上では南限。赤い色鮮やかなイクラ
←千葉名産のナシ

↑房総名産のビワ。ビワを使ったお土産も人気。
←日本最北端の珊瑚



変遷する里山

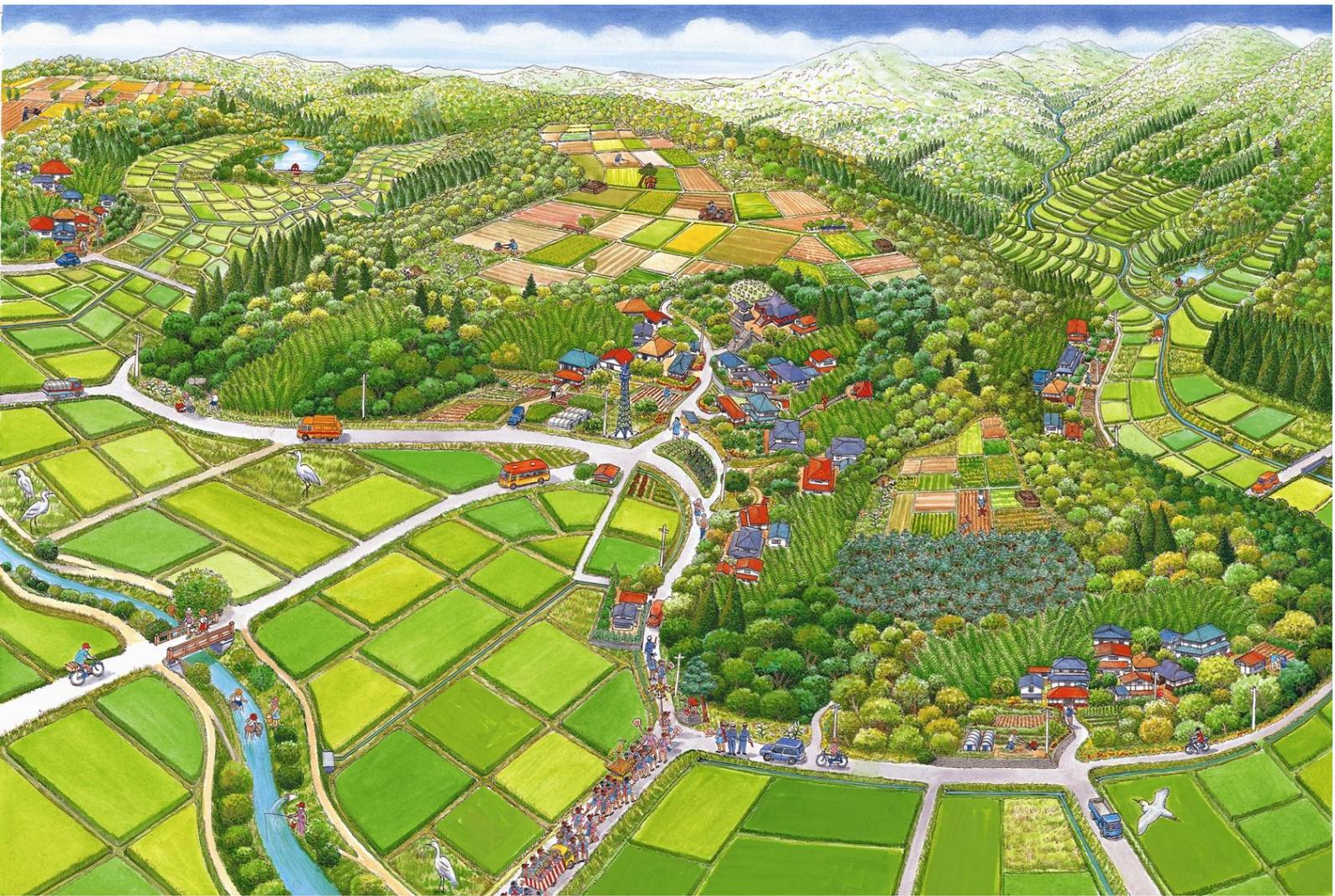


イラスト 浅井 桑男氏

↑ 里山風景のイラスト。
← (奥) 昔ながらの井戸も健在。
← (手前) 県内でも数少なくなった長屋門のある民家



● 崩れ行く里山との関係：：

人間と深い「絆」で結ばれている里山。それが、いま、人間の一方的な理由で関係が緩み始めています。

里山とは、昔から日本において、人間の生活の近くに広がる地帯(農用林)。木を伐採し薪や炭を生み出し、落ち葉なども畑や田んぼの肥料として使われてきて、まさにライフスタイルの中心的な役割を担ってきました。継続的に手を加え、維持管理をしていた里山も昭和30年代以降に一変。家庭燃料も石油やガスが普及し、化学肥料も出回り、生活は豊かになり、60年代には次々と里山が宅地化。高度経済成長時代には、労働力を維持するために関東でも多摩ニュータウンや千葉ニュータウンなどが里山の宅地化で誕生します。徐々に里山と人との距離も生じ、宅地を免れても利用価値が失われ放置されていくことになりました。人が入らなくなった里山は荒れ、植生の変化も生じ、竹林化が進み、人の目が届かなくなることで、不法投棄や産業廃棄物による環境汚染の問題も生じ、生態系にも外来種が入り込み、自然界のピラミッドにも影響が。自然は正直です。本来、人間の暮らしと自然がバランスを保ち共存共栄してゆかなければならないはずなのですが…。





↑千葉の杉山



↑里山は展望がよい
←間伐の遅れにより台風や積雪の害を受けた木



→放置されたシダケは電柱ほどの高さ

↓行く手を遮る荒れた竹林



↑典型的な谷津田



千葉の里山

●変化にとんだ地形と変化し始めた里山

県内の里山の特徴は南部では急勾配の地形が多く、県央から県北には谷津田が多く見られます。近代化とともに千葉の里山の利、活用が減り休耕地や放置林が増えていく状況です。人手が入らないことで里山は荒れ、心無い人たちによってゴミ山へと変貌している里山もあります。また、高齢化の問題もあり。ますます里山と人とのかわりが薄れてきている状況です。現在は地主や地域の市民が里山活動を展開し、里山の荒廃を食い止めるようとしています。個人の力ではどうにもならないところまで来ています。



(特非)ちば里山センター

●産官学民、一体で、里山活動

千葉県では2003年5月に『千葉県里山保全、整備および活用の促進に関する条例』を制定。いわゆる『里山条例』。里山を見直し、取り戻そうと活動し始める。

また、千葉県で実施された全国植樹祭を契機に企業、NPO、市民団体、ボランティア団体等の里山活動団体と里山の土地所有者との間で締結した『里山活動協定』を知事が認める『里山活動協定認定制度』として設定。

2008年には全国初の『生物多様性ちば県戦略』が策定され、里山、里海、里沼と自然界全体の保全、再生に取りかかる。世界基準『SATOYAMA』を合言葉に保全・活動をリスタートさせました。

「ちば里山センター」では、里山に興味がある企業や土地所有者のハイプ役になり、情報交換や支援、紹介等を行っています。また、企業、地域との連携を深め、活動の活性化を図っています。

事業内容



里山活動団体間のネットワークの構築

里山活動団体のネットワークを構築することにより、団体間の交流や情報の共有を計っています。



里山相談

里山に関心のある個人や里山活動団体、企業等からの問い合わせについての相談を受け付けています。また里山情報バンクにより、里山活動団体や環境保全活動を行おうとする企業に対し、フィールド情報の提供を行うとともに活動に当たり関係者間のコーディネートや技術指導を行っています。



里山に関する情報の発信

千葉県の自然豊かで多様な恵を与えてくれる千葉の里山のすばらしさや、それを次世代に引き継ぐための活動を行っている人々の様子を、人々に広くPRするために、ホームページの開設や里山新聞の発行、メーリングリストなどにより情報を発信しています。



里山活動団体への支援

活動のレベルアップに必要な技術講習会の開催や、怪我などの事故防止に配慮した安全講習会などを開催します。



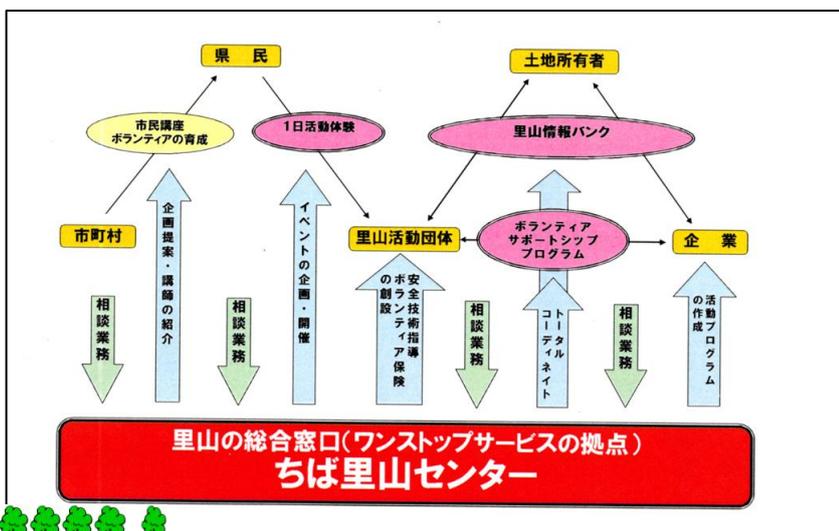
体験や勉強会のイベント開催

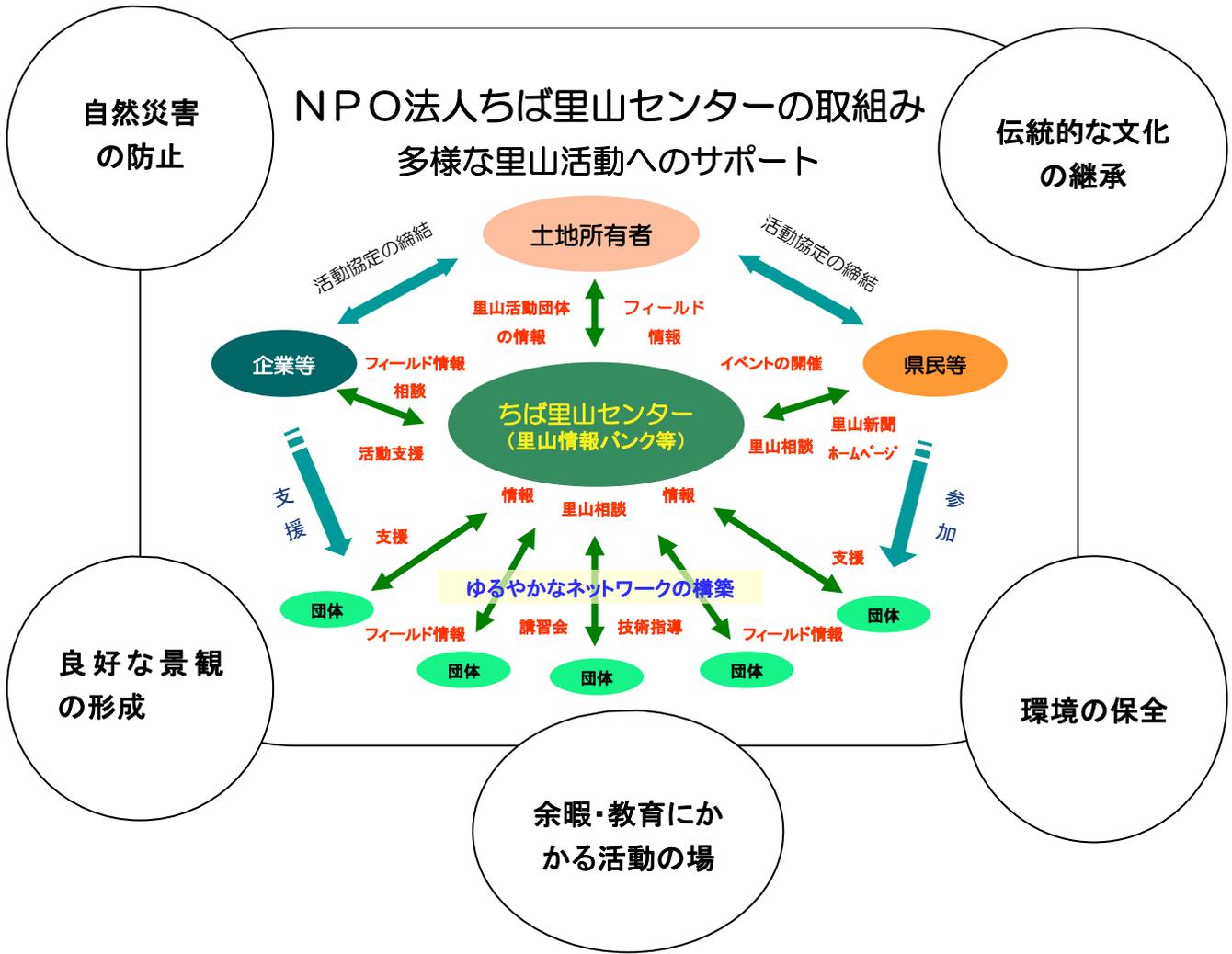
多くの人々に里山や里山活動に関心を持っていただくため、多くの人々に里山や里山活動に関心を持っていただくため、シンポジウムの開催や1日里山活動体験などのイベントを開催しています



その他

里山活動団体の活動が円滑に行えるよう千葉県独自のちば里山ボランティア保険の創設や里山活動団体への企業サポート制度(ボランティアサポートシッププログラム)の運用などの事業を実施しています





企業が担う里山の未来



↑ 植樹には企業や学校が多数参加

● いまこそ力を合わせて

世界的に優良な企業の基準が変わり始めています。いまの企業は利益重視に加え『CSR』（社会的責任）も重要視されています。日本でも環境対策やCSRに関する報告書を政府に提出している企業が2008年度には800社を超えてきています。

ヨーロッパの銀行では取引先の企業が環境や社会問題についてチェックしているところも。先進国の日本も、世界的にCSRを比べると、相当な遅れと意識の低さに関きを感じてしまいます。

しかし、チャンスでもあるはず。環境への取り組み方によっては、企業のイメージアップにもつながり、ビジネスとしての可能性も生まれてくるでしょう。アメリカを中心に事務系労働者を「ホワイトカラー」、工場労働者を「ブルーカラー」と呼ばれ、今後、注目されるであろう環境関連産業労働者を「グリーンカラー」として定めています。日本では認知度も低く、定義もなく、『未来の労働枠』として期待される。大人たちの責任でもあり、未来の子どもたちへの投資だということのように考えなおさなくてはいけない時期なのかもしれません。

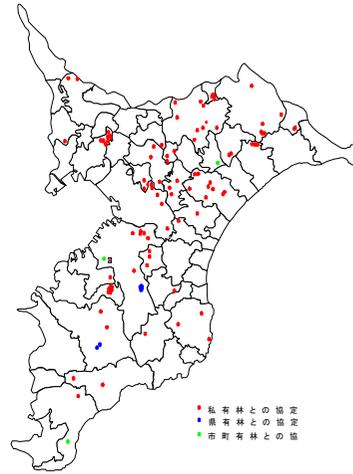
今後、積極的なCSRをしてくださる企業に対し、「ちば里山センター」は全力でパイプ役としてお手伝いしていきます。



千葉の里山を支える活動団体

〔北総エリア〕

酒々井里山フォーラム／（特非）しろい環境塾／桜宮自然公園をつくる会／房総竹炭の会／小見川竹炭研究会／NPO成田さくらの里／アルカディアの会／（特非）住みよい地域づくり推進協議会／長生森の会／（特非）ひがた八萬石／（特非）さんむ環連協／IKEYA／（特非）成田・里山を育てる会／早船里山の会／山武に雑木林をつくる会／さんむ・アクションミュージアム／飯高の巨樹と里山物語／九十九里海岸の松林を守る会／NPO法人森のライフスタイル研究所／山武の森再生計画推進協議会／やすんば自然園



千葉県資料より

〔中部エリア〕

炭友会／上総里山会／（特非）いづみの会／（特非）環境ちば情報センター／（特非）CCC自然・文化創造工場／さくらグリーンクラブ／ちば千年の森をつくる会／里山シンポジウム実行委員会／養老溪谷ふる里を守る会／四街道グリーンヴォランティアーズ／里山里海自然づくり事業をする会／谷当グリーンクラブ／いちはら里山会／竹研究会／ワークホーム里山の仲間たち／あさひクヌギの里／千葉県自然観察指導員協議会／ちば・谷津田フォーラム／里山を歩く会／（特非）ちば森づくりの会／いちはら里山クラブ／市原米沢の森を考える会／NPO法人市津・ちはら台自然楽校／おとずれ山の会／上総自然学校／フォレスト・ベア・クラブ／市原SaToYaMaよくし隊／風呂の前里山保存会／（株）ウェッジホーム／ふれあい千葉／緑の環・協議会／（社）千葉県トラック協会／房総トレイルヘッドクラブ／（特非）千葉自然学校／東京ガス(株)千葉支店／アジア農山漁村ネットワーク／（株）千葉農産／海森人の会／まんまし～な／房総森輪会／NPO法人バランス21

〔東葛西エリア〕

豊富どんぐりの森／残土・産廃問題ネットワーク・ちば／ふなばしネイチャーゲームの会／リコー千葉ふれあいの森／松戸里やま応援団／船橋里山の四季／わんぱく森の会／北総里山倶楽部／いちかわ里山倶楽部／千葉学習塾協同組合／関さんの森エコミュージアム／生活協同組合パルシステム千葉／街づくり市民の会／NPO法人ちば里山トラスト

〔南房総エリア〕

（特非）大山千枚田保存会／鴨川里山を守る会／安馬谷里山研究会／（特非）ネイチャースクールわくわくWADA／たのくろ里山保存会／里山保全「自然塾」／里山作り拓樹／稲村城稲の里体験倶楽部／森林デザイン研究所／森の時計・自然工夫塾／桑田里山の会／NPO法人ちば森林資源コンサーブ／アクション・グリーン

〔企業・団体賛助会員〕

鴨川自然王国／富士ゼロックス（株）千葉支社／（株）ひらい／東京電力（株）
他 個人会員 合計67



森のメニューは無限大



切り株も“自然のオブジェ”として、里山に溶け込む。



里山では、市民、NPOが知恵やアイデア、経験をいかしたイベントなどが企画される。(写真上)問題になっている竹林から竹を伐採し、炭にし、活用。



竹を使った飯ごうのご飯は絶品

現在、県内の個性豊かなフィールドで、里山整備・保全を行っている当会会員、活動団体が80以上あります。里山を守る活動を楽しみながら、様々なイベントなどを通じて地域の方々と交流。自然に触れることで、自然から学び、感じ、時には自然の恵みを食すことなど、里山ならではの体験、経験ができる喜びがあります。また、企業のニーズにも応えられるように、話し合いの場を設け、幅広い活動を心がけている団体が数多くあるのも千葉県の特徴かもしれません。

● 地域と地形を活かした里山活動

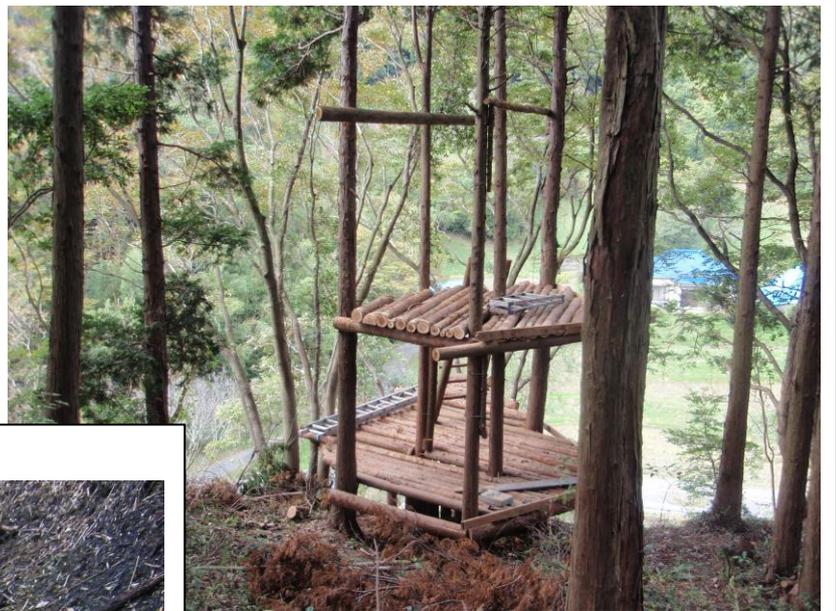


チェーンソーの講習会も開かれ、“山の達人”として緑を守る森人になります。緑を守る森人は安全第一をモットーに、木の特性、生え方を考え、伐採します。





絶滅危惧種の生息地でもある里山



伐採した杉を使い、見晴台やツリーハウスに



荒廃した山に階段や道を通す活動のひとつ



杉などをウッドチップとして再利用



秋の田園風景名物

里山を守る森人たちの
アイデアがいっぱい





問い合わせ先

特定非営利活動法人ちば里山センター

住所：〒299-0265 千葉県袖ヶ浦市長浦拓2号580-148

TEL 番号 0438-62-8895

FAX 番号 0438-62-8896

Mail info@chiba-satoyama.net

<http://www.chiba-satoyama.net/>

受付時間 月曜～金曜 9:00～17:00（日曜、祭日を除く）



持続可能な里山活動のために

～ 企業・団体の皆様へ ～

ちば里山センターは、里山復興とその持続的保全活動に関する協働について、企業・団体の皆様と話し合いたいと願っています。

社員教育や人材育成を進めたいー

地域社会とよりよい連携を図りたいー

グリーンビジネスなど、社会事業への参画を考えたいー

自然との共生を目指す里山活動が、こうした皆様の課題解決にお役にたてるのではないかと考えています。

「協働」による支援の形はさまざまです。里山活動の一層の活性化と将来への展望に向けて、皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

・・・・・・・・・・・・・・・・協働支援例・・・・・・・・・・・・・・・・

労働支援

直接、山野のフィールドを活動の場とする植林、草刈りなどの活動

資・機材支援

作業者やイベントを間接、直接に支援する活動

運営・マネジメント支援

団体の運営、管理をサポートする活動

(プロボノ pro bono : 社会人が業務上の専門的な知識や経験を提供するボランティア活動)

活動資金支援

資金提供などの形で支援する活動

ちば里山センターでは、そのほかいろいろな「協働」の形態についてご相談をお待ちしております。

企画 編集 猪野正哉
デザイン 松永美知子
撮 影 佐藤正樹



特定非営利活動法人ちば里山センター